ECOVILLAGE CONFERENCE TOKYO 2009

第3回
エコビレッジ国際会議TOKYO

環境危機世紀　持続可能なコミュニティへの挑戦
～ 小さなアクションから大きなうねりへ

主催：NPO法人ビーグッドカフェ　**共催：**NPO法人パーマカルチャー・センター・ジャパン　**協力：**日本エコビレッジ推進プロジェクト、（株）ビオシティ、懐かしい未来ネットワーク、Global Ecovillage Network、greenz.jp（（株）ビオピオ）、地球環境パートナーシッププラザ　**協賛：**東京建物（株）、エコプロダクツ2009、（株）野毛印刷社、アミタ（株）、（株）地球の芽　**後援予定：**環境省、国土交通省、国連人間居住計画、国連訓練調査研究所、日本大学生物資源科学部、毎日新聞社、21世紀社会デザイン研究学会、デンマーク大使館、福島県飯舘村　**助成：**国際交流基金

ご注意・ご案内

- ホール内での飲食はできません。
- お食事はウィメンズプラザ1F交流コーナーをご利用ください。
- 開場時間と閉場時間は会場ごとに異なります。P.3~5 をご参照ください。
- **総合案内 / 当日チケット販売**
  地球環境パートナーシッププラザ（裏表紙参照）へお願いいたします。
- **当日お問合せ：03-3794-2302　BeGood Cafe**

パスの再発行はいたしかねます。各会場にご入場の際はパスをご提示ください。

笑顔がつながる暮らし方
～未曾有の経済崩壊のあとで

シキタ純　NPO法人ビーグッドカフェ代表理事

巨人思想家E・F・シューマッハーは、ドイツでシュンペーターに学び、英国で時の人ケインズに学び、渡った米国で世界大恐慌を体験しました。著書『スモール・イズ・ビューティフル（人間中心の経済学）』で卓越した世界観を述べています。そのひとつを要約すると＜現代社会の重大な過ちは、自然を「利益」としているところである。自然からの産物は、損益計算書の利益とされるべきものではなく、貸借対照表の資本なのだ。つまり、資本と考えれば、誰もが「使えば、その度に元に戻す」努力を惜しまないだろう。利益と考えるから、採り続けてしまうのだ…。＞
昨年から未曾有の経済崩壊が始まりました。これは、経済学的には至極もっともなことで、いずれはおこる予測可能な現象でした。右肩上がりの経済成長はいずれ破綻するということです。そして、その自由経済の犠牲となり続けた自然は回復不能な状況となりました。大切な資本を元に戻す努力を怠ったがために、山野は荒廃し、水は枯渇し、土壌が荒れ、海も痩せ、食の安全が脅かされました。それでもなおかつこの地球上で、今後もこの大量消費文明を維持していこうというのでしょうか。不可能です。
私達ビーグッドカフェは、10年間の活動を通して「持続可能な社会と平和」をテーマに活動をしてきました。そしていまこそライフスタイルのシフトチェンジを強く呼びかけます。「自然と対峙して生きる二元論的」でなく、「自然に生かされていく一元論的」を基本にし、もう一度現代文明を見直す時期だと確信します。世界の潮流として注目を集めるエコビレッジは、この日本でもその重要度を増しつつあります。土のある生活、親子の愛がこもった家庭、隣人との共生、自然の恵みを感謝をもっていただく。過去には在った生き方。そしてそれが未来型コミュニティライフなのです。
3回目となるエコビレッジ国際会議TOKYOでは、日本でどう「始めるのか」のヒントと情報をたくさん受け取っていただけます。
始めましょう、笑顔がつながる暮らし方を。

おかしな世界を今、変える＜共＞の集い
第3回エコビレッジ国際会議TOKYOへの期待

糸長浩司　NPO法人PCCJ代表理事・日本大学教授

地球がおかしい。世界がおかしい。人類の今までの進化は何だったのか。
富める者の経済ルールの下で、地元の富が奪われる、グローバリゼーションの暴力。
ビジュアル化された市場価値が一瞬のうちに無になり、地域社会経済を奈落の底に落とす。
豊満と貧困の格差拡大、そんな根源的な疑問と不安が、今、世界中を駆けめぐっている。
便利で、何でも手に入る社会、GDPで計られる活発な経済、人やものの流通の促進、地球そのものを科学・技術で克服・征服できると信じてきた時代は終わろうとしている。
しかし、座して、この間違った人類の歴史の終焉を待つことはできない。
母なる地球に共に生きること、太陽の恵みを、大地の恵みを、清い水を、澄み切った空を、息子たちや、まだ見ぬ未来の子ども達にしっかりと渡すために、世界を地球を再生しよう。
世界中の人々が価値ある徒党を組み、自分達の場で、今、変革の行動を起こし始めた。
エコビレッジは生態村。地球生態系の一員としての人類が、地球生態系の他の生き物たちと共に、末永く地球に暮らしつづけるために、新たな理念とシナリオの創造、そして、変革と実現のための実践をしたい、仲間を集めて。
私は、パーマカルチャー、エコビレッジと向き合って、まだ、15年。
今、ここに、第3回エコビレッジ国際会議TOKYOの開催。
世界エコビレッジ運動の創始者のロス夫婦を招き、多くの日本型エコビレッジの萌芽、脱石油ライフスタイルを目指すトランジション運動、エコロジカルな共的環境・空間・社会づくりの実践者達の集いとして開催できることは、感無量。
一年間のエコビレッジイヤー、エコビレッジ教育活動(EDE)を担ってきた仲間らにより、50以上の分科会が設けられ、日本の都市、農村での持続可能な地域コミュニティの再生・創造を目指した仲間達が一同に会す。
エコビレッジ運動は、自然に、協同に住むという人間の原始的な欲求の発露。
人類史のノマドから定住革命へのステップを再現するかのよう。
所有する権利が持たない者達を排除するというシステムから脱構築し、空気、土地、水、自然を、みんなで大切に共用するエコビレッジの創造。
都市、農村で、リゾーム（根茎）的に、オートノミーにエコビレッジコミュニティの発生。
確かな信念・確信、良き仲間、地道な実践の継続こそが、永続的な社会の変革の力となる。
さあ、エコビレッジという、永続的な社会革命につながる、小さな、そして、偉大な一歩を共に歩もう。

第 1 日目

4/24 金

	WP1 東京ウィメンズプラザ　ホール	WP2 東京ウィメンズプラザ　視聴覚室	GEIC 地球環境パートナーシッププラザ
9：00	9:30 開場		10:00 開場
10：00	WP1 01 レ 10:00~10:35 35m **環境危機世紀 持続可能なコミュニティへの挑戦**／糸長浩司 WP1 02 レ 10:35~10:55 20m **デンマークの低炭素型地域づくり**／ベンツ・リンドブラッド		GEIC 11 ⓘ 10:00~17:00 **交流カフェ** **総合インフォメーション** **展示** 世界のエコビレッジ紹介 関連団体によるパネル展示 関連イベント情報など **カフェ** こだわりドリンクを揃えた期間限定カフェ **メッセージ発信ボード** **例：**ひとことメッセージ **例：**エコビレッジ住民募集！ **例：**勉強会・WSのお知らせ **書籍販売** 関連書籍 /CD/DVD の販売 **特設ギャラリー** ワルリ絵画展
11：00	WP1 03 レ 11:00~12:00 60m **経済とエコビレッジ ～世界経済の崩壊と再生のシナリオ**／ロス・ジャクソン　※タイトル変更となりました。		
12：00			
13：00	WP1 04 音 13:00~13:20 20m **スローライブ**／じぶこん WP1 05 レ 13:20~14:20 60m **エコビレッジデザイン教育**／ヒルダー・ジャクソン		
14：00		14:00 開場	
15：00	WP1 06 レ 14:30~15:30 60m **仏教思想とコミュニティアクション ～スリランカ サルボダヤ運動**／ヴィンヤ・S・アリヤラトネ	WP2 09 レ 14:30~15:30 60m **日本におけるエコビレッジデザイン教育**／古橋道代×鎌田陽司×ヒルダー・ジャクソン	
16：00	WP1 07 レ 15:45~16:35 50m **東アフリカのエコビレッジ運動 ～土嚢建築の現代的意義**／井上照夫	WP2 10 ワ 15:45~16:45 60m **こころ・からだ・自然のつながりを取り戻そう～身近な薬草や香りでセルフケア**／安珠	
17：00	WP1 04 音 16:50~17:10 20m **スローライブ**／じぶこん	17:00 閉場	17:00 閉場
18：00	WP1 08 デ 17:10~20:30 140m **グランドディスカッション 第 1 日目** **～エコビレッジムーブメント 世界的潮流を俯瞰する** **前半**　17:10~18:40 90m パネルディスカッション **休憩**　18:40~19:00 20m **後半**　19:00~20:30 90m Q&A		
19：00			
20：00			
21：00	21:00 閉場		

レ レクチャー　デ ディスカッション　ワ ワークショップ
音 音楽ライブ　映 映画　ⓘ インフォメーション

第 2 日目

4/25 土

4/25 土

	WP1 東京ウィメンズプラザホール	WP2 東京ウィメンズプラザ視聴覚室 B・C	WP3 東京ウィメンズプラザ第 1 会議室	UN1 国連大学エリザベスローズホール	UN2 国連大学レセプションホール	GEIC 地球環境パートナーシッププラザ
9：00	9:30 開場					10:00 開場
10：00	WP1 12 音 10:00~10:15 (15m) **パーカッションライブ**／Percussion 花＆フレンズ WP1 13 レ 10:15~11:15 (60m) **韓国 社会的企業 E-jang によるコミュニティデザインとその展望**／リム・キョンス					GEIC 11 ⓘ 10:00~17:00 **交流カフェ 総合インフォメーション** **展示** 世界のエコビレッジ紹介 関連団体によるパネル展示 関連イベント情報など **カフェ** こだわりドリンクを揃えた期間限定カフェ **メッセージ発信ボード** 例：ひとことメッセージ 例：エコビレッジ住民募集！ 例：勉強会・WS のお知らせ **書籍販売** 関連書籍 /CD/DVD の販売 **特設ギャラリー** ワルリ絵画展
11：00	11:30 閉場	11:30 開場				
12：00		WP2 15 映 12:00~13:00 (60m) ⓐ**「パーマカルチャー 地球とつながる楽園の暮らし」** 13:00~13:50 (50m) ⓑ**「懐かしい未来 ～ラダックから学ぶこと（短縮版）」**上映会＆トーク	12:00 開場	12:00 開場		
13：00			WP3 18 レ 12:30~13:00 (30m) **老後を豊かに生きる～神戸・那須の参加型高齢者住宅**／近山恵子 WP3 19 レ 13:00~13:30 (30m) **静岡 池田の森の取り組み**／漆畑成光	UN1 24 レ 12:30~13:00 (30m) **利他的価値を事業化する**／熊野英介 UN1 25 レ 13:00~13:30 (30m) **小舟木エコ村の軌跡**／飯田航 UN1 26 デ 13:30~14:00 (30m) **事業としてのエコビレッジ**／リム×熊野×飯田		
14：00	閉場	WP2 16 映 ワ 14:00~15:00 (60m) **「降りてゆく生き方」**トーク＆ダイジェスト上映／森田貴英	WP3 20 ワ 13:45~14:45 (60m) **みんなで語ろう・つながろう「エコビレッジって何？」**／日本エコビレッジ推進プロジェクト	UN1 27 レ 14:10~14:40 (30m) **千葉 柏の葉～アートによるコミュニティ形成とシビックプライド**／松田朋春 UN1 28 レ 14:40~15:10 (30m) **千葉柏の葉～環境を通じた市民主体のコミュニティデザイン**／川路武		
15：00		WP2 15 映 15:20~15:50 (30m) ⓒ**「かんかん森の木のはなし」** 15:50~16:50 (60m) ⓐ**「パーマカルチャー 地球とつながる楽園の暮らし」** 16:50~17:20 (30m) ⓒ**「かんかん森の木のはなし」**	WP3 21 デ 15:00~16:00 (60m) **地域の自立・再生・共生チャレンジ ～伊勢原・藤野・飯舘**／関東近郊 地域再生の事例紹介 WP3 22 ワ 16:20~17:20 (60m) **パーマカルチャーで暮らしをデザインする**／四井真治	UN1 29 レ 15:20~15:50 (30m) **長崎 五島列島 半泊村の取り組み**／濱口孝 UN1 30 レ 15:50~16:20 (30m) **くりもとミレニアムシティから未来ビレッジへ**／井口浩 UN1 31 レ 16:30~17:30 (60m) **いよいよ始まった日本型エコビレッジⅠ ～形態の違いを超えて**／ NPO・企業・個人によるオープンディスカッション	15:00 開場 UN2 32 デ レ 15:30~17:30 (120m) **アート×エコビレッジ ケンケンガクガク**／生意気 & greenz.jp	17:00 閉場
16：00						
17：00						
18：00	18:00 開場	WP2 17 デ 17:40~18:40 (60m) **いよいよ始まった日本型エコビレッジⅡ ～各地の萌芽をつなぐ**／いのちの村プロジェクト	WP3 23 ワ 17:40~18:40 (60m) **暖かいお金の仕組み ～地域通貨を疑似体験！**／レインボーリング他	18:00 閉場	18:00 閉場	
19：00	WP1 12 音 18:20~18:45 (25m) **パーカッションライブ**／Percussion 花＆フレンズ WP1 14 デ 18:45~20:45 (120m) **グランドディスカッション 第 2 日目 ～アジアにおけるエコビレッジの展開**	19:00 閉場	19:00 閉場			
20：00						
21：00	21:00 閉場					

WP1 東京ウィメンズプラザホール　WP2 東京ウィメンズプラザ視聴覚室　WP3 東京ウィメンズプラザ 第1会議室
UN1 国連大学エリザベスローズホール　UN2 国連大学レセプションホール　GEIC 地球環境パートナーシッププラザ

第 3 日目

4/26日

	WP1	UN1	UN2	GEIC
	東京ウィメンズプラザ ホール	国連大学　エリザベスローズホール	国連大学　レセプションホール	地球環境パートナーシッププラザ
9：00	9:30 開場			10:00 開場
10：00	WP1 33 レ 10:00~11:00 60m **フィンドホーン ～持続可能性のデザイン、40年の軌跡**／メイ・イースト	11:00 開場	11:00 開場	GEIC 11 ⓘ 10:00~17:00 **交流カフェ** **総合インフォメーション** **展示** 世界のエコビレッジ紹介 関連団体によるパネル展示 関連イベント情報など **カフェ** こだわりドリンクを揃えた期間限定カフェ **メッセージ発信ボード** 例：ひとことメッセージ 例：エコビレッジ住民募集！ 例：勉強会・WSのお知らせ **書籍販売** 関連書籍 /CD/DVD の販売 **特設ギャラリー** ワルリ絵画展
11：00	WP1 34 デ 11:00~11:30 30m **永続するコミュニティの秘訣**／メイ・イースト×榎本英剛			
12：00		UN1 39 レ 11:35~12:25 50m **本来経済とエコビレッジムーブメント**／ピーター・D・ピーダーセン	UN2 44 レ 11:40~12:10 30m **国産無垢材の健康エコ住宅で林業再生**／相根昭典	
	WP1 35 レ 12:20~12:50 30m **里地里山の再生と新たなコモンズの創造**／武内和彦		UN2 45 レ 12:10~12:40 30m **里山長屋暮らし**／山田貴宏	
13：00	WP1 36 レ 13:00~14:00 60m **リローカリゼーションとスローライフ**／辻信一	UN1 40 レ 12:30~13:10 40m **木の花ファミリーの軌跡と展望**／古田偉佐美	UN2 46 レ 12:45~13:15 30m **里地再生と地域コミュニティ**／竹田純一	
		UN1 41 デ 13:20~14:20 60m **居住者大集合！ エコビレッジ生活の実践者達**／都内エコビレッジ居住者による本音トーク（エコアパート花園荘×エコヴィレッジ鶴川×かんかん森）	UN2 47 レ 13:15~13:45 30m **自然復元活動を通じたヒトとコミュニティの再生**／加藤正之	
14：00			UN2 48 レ 13:45~14:15 30m **懐かしい未来のエネルギー**／都筑建	
15：00	WP1 37 レ 14:20~15:20 60m **トランジションタウンの可能性**／榎本英剛	UN1 42 デ 14:30~15:20 50m **気付きとコミュニティ**／古田偉佐美×ヴィンヤ・S・アリヤラトネ	UN2 49 デ ワ 14:20~15:20 60m **べてるの家はスローのふるさと ～障がい者が主役の地域づくり**／吉岡淳×向谷地生良×辻信一	
16：00	WP1 38 デ 15:30~16:30 60m **グランドディスカッション 最終日 ～日本のエコビレッジムーブメント 小さなアクションから大きなうねりへ**			
17：00	17:00 閉場	UN1 43 デ 17:00~18:00 60m **千葉鴨川と地域コミュニティ**／林良樹×宮田武宏×神澤則生	UN2 50 ワ 17:00~18:30 90m **Let's トランジション in ジャパン！**／トランジション・ジャパン	17:00 閉場
18：00		18:00 閉場		
19：00			UN2 50 19:00~21:00 120m **フェアウェルパーティ**／スローフードで交流会 （24日券または25日券をお持ちの方も、1500円の入場料でご参加可）	
20：00				
21：00			21:00 閉場	

レ レクチャー　デ ディスカッション　ワ ワークショップ
音 音楽ライブ　映 映画　ⓘ インフォメーション

第１日目　4/24金

4/24金

東京ウィメンズプラザ ホール　開場9：30　閉場21：00

WP1 01 レ 10:00~10:35

基調講演
環境危機世紀　持続可能なコミュニティへの挑戦

市場原理主義は虚の博打経済として破綻し実体の経済社会を破壊した。自然破壊、生物の多様性の減少、地球温暖化、水・土・大気の汚染、食料・エネルギー・水の奪い合い、ピークオイル、富の独占、戦争、飢餓貧困、人心・思いやり・コミュニティの崩壊。人間を取り巻く全ての環境の危機世紀。再度、人類がこの地球でどう末永く生きていくのか、その倫理と行動のあり方が問われ、その解答が求められている。人類の新定住革命、地球の大地にしっかりと根を張り、家族と仲間・地域と共に、その地の歴史・文化・風土を尊重したバイオリージョン(生態地域)な新定住革命が求められている。この新定住革命は、日本で、世界で、反グローバリゼーションとして、リゾーム的に起きている。過疎山村での自立再生、都市住民の農村回帰運動、協同自発的居住地づくり、共通価値観の者達のエココミュニティ創造、都市農村交流、食とエネルギーの地産地消運動の挑戦が始まった。



糸長 浩司　日本大学生物資源科学部教授、PCCJ 代表理事。工学博士、一級建築士、東京工業大学大学院修了。住民参加、エコロジカルデザイン、自然建築、エコビレッジ研究をテーマに、学内や神奈川県藤野で実践的なプロジェクトも行っている。著書に『地球環境建築のすすめ』(共著、彰国社)等。

WP1 02 レ 10:35~10:55



デンマークの低炭素型地域づくり

環境先進国と言われるデンマーク。国をあげての低炭素型地域づくりの最新事例を紹介する。また、2009年12月にコペンハーゲンにて開催予定のCOP15（気候変動第15回締約国会議）に向け、デンマーク大使館が取り組む「エコサイクリング」プロジェクトについて紹介する。

ベンツ・リンドブラッド　デンマーク大使館領事。1943年デンマーク生まれ。コペンハーゲン大学にて文学を専攻後、日本の大学にて講師を勤める。1973年より在日デンマーク大使館勤務、1978年より同大使館 文化アタッシェ兼領事、1987年より参事官兼領事。

WP1 03 レ 11:00~12:00

基調講演
経済とエコビレッジ
～世界経済の崩壊と再生のシナリオ

※タイトル変更となりました。

過去、人間が狩猟生活から農耕社会へ、また農耕社会から工業社会へ移行したときのように、現在のグローバル社会は歴史的な移行期にさしかかっている。私たちが直面している次なる移行とは、持続「不」可能な工業社会から、持続可能なホリスティックな社会への移行と言えよう。つまり、資源に限りのある生きた地球、その上に生きる私たち人間が自らの限界を自覚した社会への移行である。しかし、その過程は自然発生的な緩やかなものではなく、大きな衝撃を伴ったものになるだろう。現代のグローバル社会は代替のきかない自然資本を消費し、それを成長と呼ぶことによって成り立ってきた。その成長バブルが崩壊したとき、突然の終焉が訪れるのだ。なぜ私たち人間は、突然の終焉を迎える運命にあるのか。さらに、終焉後にはどのような再生シナリオが描けるのか。この講演では「崩壊と再生」をテーマに、大きな犠牲を伴う既存社会の崩壊について、また、古い経済体制や政治体制の過ちから学びつつ、私たちが次に描くべき新しい・望ましい“エコビレッジ的な”社会とは何かについて考察する。



ロス・ジャクソン（Ross Jackson）［デンマーク］
グローバルエコビレッジネットワーク（GEN）共同設立者。デンマーク環境団体ガイアトラスト会長。エコノミストであり国際的金融機関ガイアコープの会長を務めたのち、1987年にガイアトラストを設立。サステナブルな社会づくりへの支援を始める。デンマークにおけるコーハウジング運動の先駆者であり、エコビレッジの世界的なネットワークづくりのためにGENの設立に寄与する。

WP1 04 音 13:00~13:20 / 16:50~17:10



スローライブ

オーストラリアの先住民・アボリジニの楽器で、ユーカリの木を白蟻が穴を空けた世界最古の管楽器と言われている「ディジュリドゥ」、松の木で作られたスペインの「フラメンコギター」やアフリカの「カシシ」などの小楽器を用いて、伸びやかな「唄声」をのせて奏でる、トライバルポップスバンド「じぶこん」。民族を超えたサウンドとグルーヴと感謝に満ち溢れた唄をどうぞお楽しみください。

じぶこん　ギター・ディジュリドゥ……民族を超えたサウンドとグルーヴ、そして森羅万象への感謝に満ちた伸びやかな唄声で織りなします。3rdアルバム「音の惑星」も好評発売中！　http://www.jibucon.net/

WP1 05 レ 13:20~14:20

エコビレッジデザイン教育

エコビレッジデザイン教育（Ecovillage Design Education, EDE）は、国連「持続可能な教育（ESD）のための10年」の重要な位置を占める、国際的な教育カリキュラム。2007年以降、既に世界12カ国15地域以上で開催されている。当プログラムの作成にあたっては、GENの教育部門であるガイアエデュケーションが重要な役割を担っている。その創設者であるヒルダー氏をお招きし、長年エコビレッジ教育に携わってきたご経験から、持続可能なコミュニティづくりにおける人材育成についてお話しいただく。



ヒルダー・ジャクソン（Hildur Jackson）［デンマーク］
GEN及びガイアエデュケーション共同設立者。女性運動や自然分娩、有機農法、地域社会活動など幅広い草の根運動活動家。1972年デンマーク初のコーハウジングコミュニティ創設者の一人。パーマカルチャーデザイナーの資格を持ち、ラジャヨガ瞑想の教師でもある。1987年、夫のロスと共にガイアトラストを設立。1993年以来、GENと共にデンマークエコビレッジネットワークの支援を進める。著書に『Ecovillage Living』等。

WP1 06 レ 14:30~15:30

仏教思想とコミュニティアクション
～スリランカ サルボダヤ運動

サルボダヤ・シュラマダーナ運動とは、1958年スリランカにおいてノーベル平和賞の呼び声高いA.T.アリヤラトネ博士によって始められた農村開発運動。労働の分かち合い（シュラマダーナ）を通じて個人の目覚め、人間性の向上、そしてそれを家族、地域社会ひいては地球全体に広めていくことを目指し、スリランカ全土でコミュニティ再生を行っている。創始者であるA.T.アリヤラトネ博士のご子息ヴィンヤ氏をお迎えし、持続可能なコミュニティ創造の秘訣についてお話いただく。



ヴィンヤ・S・アリヤラトネ（Vinya Ariyaratne）［スリランカ］
1958年から半世紀に渡り持続的なコミュニティ発展のために活動を展開してきた、スリランカ最大のNGO「サルボダヤ・シュラマダーナ運動」専務理事。コロンボ大学で医学博士号、米国ジョンホプキンス大

WP1 東京ウィメンズプラザホール　WP2 東京ウィメンズプラザ視聴覚室　WP3 東京ウィメンズプラザ 第1会議室
UN1 国連大学エリザベスローズホール　UN2 国連大学レセプションホール　GEIC 地球環境パートナーシッププラザ

学で公衆衛生の修士号を取得。専門であるコミュニティ医療や熱帯医療の他、2004年のスマトラ沖地震被害以降の復興支援や、サルボダヤが1990年代からいち早く試行したコミュニティ開発におけるICT利用など、幅広い分野に渡る講演を多数実施。

WP1 07 レ 15:45~16:35

東アフリカのエコビレッジ運動
～土嚢建築の現代的意義



持続可能な東アフリカ・エコビレッジ運動は、W・ビリグア在日ウガンダ大使が委員長をつとめた東アフリカ5カ国大使の合意のもと、TICAD IV 2008において提案された試作進行中のプロジェクトである（1ユニットは完成済）。土嚢建築作業は、ウガンダの孤児たちが工法習得の目的で参加し、天理大学教員・学生が、日本各地/インド/アフガニスタン/中国などの地震・紛争被災各地の経験を活かして行った。土嚢ドーム建築は安価で、他の自然建築より耐震構造や防火にも強い。素材には鉄骨や材木を使わず、現地のアリ塚の土を活用し、約一万袋を積み上げて建設する。現地には、大学教員/関係大臣/各国のミッションなどが視察に訪れ、その生態建築に強い関心を示している。シェルター群の中には、バイオガス・ラトリーン、鳥翼型風力発電、浄水器、上総掘りによる井戸や、タケノコから糖分液を抽出するアビシニカ種の竹類配置など、様々な工夫が試みられている。



井上 昭夫 天理大学教授、付属おやさと研究所長、国際文化学部・地域文化研究センター長。建築学に関心を持ち、NGO国境なき建築家機構（BWB）と共同で、難民人道自立支援シェルターへの展開を目的にアースバッグ（土嚢）による神戸アフガニスタン友好公園施設を構築、また地震被災地インド・グジャラート州においてボンガ（土嚢シェルター）を現地NGOらと協働建築。アフガニスタンでは、カブール大学と共同研究で将来アフガンに竹林造成を目指すプロジェクトを推進中。

WP1 08 デ 17:10~20:30（途中休憩20分）

グランドディスカッション 第1日目
～エコビレッジムーブメント　世界的潮流を俯瞰する

未曾有の経済崩壊がニューヨーク島から世界に広がりました。これは、大量消費文明に打撃を与えるパンチとなり、世界中がいま重傷患者となり果てています。しかし、海外の主要なエコビレッジにとってこの経済崩壊はどう影響しているのでしょうか。初日のグランドディスカッションでは、この興味深いテーマを中心に、エコビレッジのさらなる可能性を探ります。

糸長 浩司［P.6 参照］ **ロス・ジャクソン**［P.6参照］ **ヒルダー・ジャクソン**［P.6参照］ **ヴィンヤ・S・アリヤラトネ**［P.6参照］ **井上 昭夫**［P.7参照］

東京ウィメンズプラザ 視聴覚室　開場14：00　閉場17：00

WP2 09 レ 14:30~15:30

日本におけるエコビレッジデザイン教育



いよいよ日本でも始まったエコビレッジデザイン教育（EDE）。環境・経済・社会・世界観の4つのテーマで、2008年11月から2009年6月まで、現在約30名の第一期生が持続可能なコミュニティづくりについて学んでいる。主催団体の代表である古橋氏と鎌田氏をお招きし、実際のEDEの写真や話を交えながら、コースの様子や日本版EDEの特徴などを紹介する。最初にプレゼンテーション形式で概要と現状をご紹介し、その後EDE現役受講生も交え、会場とのフリーディスカッション形式でより深くEDEの魅力をお伝えする。エコビレッジづくりを模索している方、必見のプログラム。

古橋 道代 日本エコビレッジ推進プロジェクト代表。「木の花ファミリー」メンバー。GEN日本大使として、世界のエコビレッジの動きを日本に紹介している。英国フィンドホーンにてEDE指導者養成コース修了。

鎌田 陽司 NPO法人開発と未来工房代表理事。懐かしい未来ネットワーク代表。チベット伝統医療復興支援ネットワーク代表。KJ法マスター。

ヒルダー・ジャクソン［P.6 参照］

WP2 10 ワ 15:45~16:45

こころ・からだ・自然のつながりを取り戻そう
～身近な薬草や香りでセルフケア



自然とのつながり、地域とのつながりを大切にするエコビレッジ的な暮らしにおいて、「心と身体のつながり」も忘れてはならない大事な要素。このワークショップでは、自然のもつ癒しの力を感じさせてくれる植物療法の中から、アロマテラピーと身近な薬草を紹介します。香りをつかって自分の呼吸やからだを感じるワークを行います。その後、「身近な薬草」をテーマに、実際に薬草を見ていただくほか、これからの持続可能なヘルスケアはどんな風であったら良いか、参加者の皆さんと一緒に意見交換したいと思います。健康のこと、環境のことについて一緒に考えてみたいという方、お待ちしています。

安珠 アロマグルーヴ代表。ボディワーカー、エコロジカル・メディスン研究家、パーマカルチャーデザイナー。人間の健康＝地球の健康が成り立つ社会をめざしてワークショップや個人セッションを行う。

地球環境パートナーシッププラザ　開場10：00　閉場17：00

GEIC 11 ⓘ 交流カフェ 10:00~17:00

総合インフォメーション／受付／その他

展示　世界のエコビレッジマップ / 国内事例のパネル展示 / イベント情報

世界のエコビレッジマップでお気に入りのコミュニティを探してみよう！また、登壇団体などが主催する関連イベント情報ももりだくさん。

カフェ　フェアトレードコーヒー販売 / オーガニックスイーツ販売

女の子3人組のカフェ"あじますろう"より、エクアドル&ブラジル産のおいしいフェアトレードコーヒーとこだわりのスイーツをお届けします。喧々諤々のディスカッションの合間に、ほっとなひとときはいかが？

メッセージボード　仲間募集 / イベント告知 / 一言感想

「エコビレッジ居住者募集」「ワークショップやります」「一言感想」など、他の参加者やゲストに向けて発信したいメッセージを自由に書き込んでください。

書籍販売　関連書籍 / CD / DVDの販売

ゲストによる著作、エコビレッジ特集の雑誌、エコビレッジ居住者によるCDやDVDなど、さらに理解を深めるための書籍が充実。雑誌「ビオシティ」、雑誌「アネモネ」、その他登壇団体による書籍/CD/DVDなど多数。（ナマケモノ倶楽部、べてるの家、かんかん森、エコアパート、木の花ファミリーなど）

特設ギャラリー　ワルリ絵画展

自然を畏れ敬うことを忘れず、日々自然に感謝しながら生きているインド少数先住民族「ワルリ族」。かつての日本人も持っていた、自然と人間が共生してゆくための豊かな知恵が活き活きと描かれたワルリの世界。エコビレッジ国際会議TOKYOでの特別コラボレーション展示です。お見逃しなく！

※ この交流カフェは入場チケット不要です。チケットをお持ちでない方も、またチケットをお買い求めになっていない日でも、展示の閲覧や書籍の購入など、お気軽にお立ち寄りください。

第 2 日目　4/25 土

4/25 土

東京ウィメンズプラザ ホール　開場9：30　閉場21：00

WP1 12 音 10:00~10:15 / 18:20~18:45
パーカッションライブ



「アフリカンたいこ教室」主宰、エコヴィレッジ鶴川在住のPercussion花が率いる西アフリカのたいこジャンベの演奏。自然の木と皮の大地の響きと、躍動感あふれるリズムをお楽しみください。

Percussion花 & フレンズ　Percussion花は打楽器奏者として活躍する傍ら、古代米を自然農法で10年以上自給。奥山の保全復元活動にも携わり、また杉の活用を啓蒙すべく日本の杉でつくった楽器「木の香（き の か）」の販売も手がける。ここち良い民族楽器演奏「天鼓（てんく）」、タップとのユニット「Djembe&Tap スキップポイ」なども展開。

WP1 13 レ 10:15~11:15
韓国 社会的企業E-jang による コミュニティデザインとその展望

企業としてエコビレッジづくりにどう取り組むか。韓国の異色企業E-jangの創設者であるリム氏は、エコビレッジづくりのために自ら農業博士号を取得し、約10年前に会社を設立。第一号の事例「ムンダン村」にて、幼稚園・高校・大学・農場・カフェ・コープ・信用金庫・擁護施設などを巻き込んだコミュニティ開発事業を手がける。地方自治体からコミュニティづくりに関するコンサルティング依頼を多く受けるほか、「実体験なしに真のコンサルティングはできない」との考えから、現在社員と共にエコビレッジへの移住を計画中。



リム・キョンス（Kyoungsoo Lim）［韓国］
社会貢献型企業「E-jang」の創設者であり、最高経営責任者。地域再生やエコビレッジ創設に関するコンサルティング事業を行う。その他、パーマカルチャー講師やソーシャルベンチャー向けアドバイザリー業務など、幅広く活動。中央政府、地方自治体、農家、NGOなど多様な組織を巻き込み、社会起業家としてエコビレッジ事業を成功させた実績を持つ。

WP1 14 デ 18:45~20:45
グランドディスカッション 第2日目 ～アジアにおけるエコビレッジの展開

アジアゲストによるグランドディスカッション。冒頭でGENOA（GENアジアオセアニア支部）年次総会の出席者より最新動向の報告を行った後、ゲストらと今後の潮流について話し合う。アジア特有の風土・文化・哲学を踏まえたコミュニティづくりとは。開発や国際援助におけるエコビレッジの意義とは。アジアにおける日本の役割、また国境を越えたネットワーク構築の可能性などを模索。

糸長 浩司 [P.6 参照]　**リム・キョンス** [P.8 参照]
ヴィンヤ・S・アリヤラトネ [P.6 参照]　**ロス・ジャクソン** [P.6 参照]

東京ウィメンズプラザ 視聴覚室　開場11：30　閉場19：00

WP2 15 映 12:00~13:00 / 15:50~16:50
ⓐ「パーマカルチャー 地球とつながる楽園の暮らし ～ニュージーランド虹の谷の農園から」



ニュージーランドの農園「レインボー・バレー・ファーム」は、日本を含む世界中から毎年多くの見学者をひきつけている。パーマカルチャーの考え方に基づいてデザインされたその空間は、まさに楽園。犬やガチョウや豚が仲良く共生し、人間や動物の排泄物はコンポストで畑に還元され、自然素材で独創性たっぷりに建てられた家にはいたるところに遊び心のあるデザインが施されている。海外のエコビレッジの事例を映像で紹介した貴重な作品。

レインボー・バレー・ファーム　ジョー・ポラッシャー（Joe Polaischer）とトリシュ・アレン（Trish Allen）夫妻により、1988年から広大な荒地を開拓して作られた。パーマカルチャーの考え方に基づき、21haのオーガニック農園がデザインされている。ニュージーランド最大の都市オークランドから北に約80kmのMATAKANAという小さな村に位置。世界中から見学者を受け入れており、自給的なライフスタイルを模索する若い世代に大きな影響を与え続けている。

WP2 15 映 13:00~13:50
ⓑ「懐かしい未来 ～ラダックから学ぶこと（短縮版）」 上映会&トーク

1975年まで外界にさらされることのなかったヒマラヤの辺境地「ラダック」。ラダックの人々のつつましくも豊かな暮らしと、そこに襲い掛かった近代化と開発の嵐を描く。貨幣経済に頼らずに、ほとんどすべての生活を自給自足によってまかなっていた理想郷に突然入り込んだグローバリゼーションの弊害を映し出すとともに、伝統的な智恵を見直し地域の力を取り戻すことが、真に持続可能で幸せな社会の実現につながっていくことを示唆する作品。懐かしい未来ネットワークの鎌田氏をお迎えし、上映後に簡単なトーク&シェアリングの場を設ける。

鎌田陽司 [P.7 参照]
懐かしい未来ネットワーク　言語学者ヘレナ・ノーバーグ＝ホッジ氏のメッセージに共鳴した人たちをメンバーとして2001年に設立。NPO法人開発と未来工房による活動の一環として、「もう一つの未来＝懐かしい未来」を創造していくために、人と人、人と自然、そして内なる自分とのつながりを深めるような未来の実現のために、グローバル化に代わるローカル化、コミュニティの再興、伝統智の見直しなどに取り組んでいる。

WP2 15 映 15:20~15:50 / 16:50~17:20
ⓒ「かんかん森の木のはなし」

日本初、居住者による自主運営の多世代型賃貸コレクティブハウス「かんかん森」。都会でも実践できるエコビレッジ的ライフスタイルとして、そのトータル7年に及ぶ歩みと、現在の暮らしの様子を映像で分かりやすく紹介している。コレクティブハウスとは、北欧で始まった居住スタイルで、コモンと呼ばれる共有スペースを持つのが特徴。通常の賃貸・建売りマンション等に比べ広くて豊かな共有空間があり、生活空間や家事の一部をシェア（共有）しあう新しい暮らし方が実践されている。

かんかん森　東京・日暮里にある、日本で初めてのコレクティブハウス。幼児から80歳代のお年寄りまで約20世帯が住まう。普通のマンションのように自宅は別々だが、共同で食事ができるコモンキッチンやダイニングに加え、コモンリビング、コモンテラス、菜園テラス、工作テラスなど様々な用途に使える共有施設がある。適度にプライバシーを守りつつ、長屋のように幅広い世代が助け合う生活スタイルが注目されている。

WP2 16 映 ワ 14:00~15:00
「降りてゆく生き方」 ダイジェスト上映&トーク



経済成長のために懸命に働き続けてきた現代日本人。しかし、待っていたのは金融恐慌や格差拡大など不安に満ちた社会だった。私

WP1 東京ウィメンズプラザホール　WP2 東京ウィメンズプラザ視聴覚室　WP3 東京ウィメンズプラザ 第1会議室
UN1 国連大学エリザベスローズホール　UN2 国連大学レセプションホール　GEIC 地球環境パートナーシッププラザ

たちが未来への希望を取り戻すにはどうすればいいのか? 膨大なリサーチと考察から生まれた作品「降りてゆく生き方」は、複数名の脚本家による「共同脚本方式」、全国約2000人が参加した「地域参加型オーディション」、市民の手で広めていく「自主上映方式」など、映画界に新風を巻き起こす異色作品。脚本/製作担当の森田プロデューサーを迎え、貴重なメーキング映像も交えつつ作品の見どころを選り抜いたダイジェスト版を上映する。会場との「対話」「つながり」を大切にトーク形式で開催。

WP2 17 デ 17:40~18:40

いよいよ始まった日本型エコビレッジII
～各地の萌芽をつなぐ／国内の実践者によるネットワークづくり



エコビレッジづくりや地域コミュニティづくりなど、「いのちのつながる」社会の実現に向けた実践が日本中で急速に広がり始めている。そんな中、すでに実践している人も、実践を始めたばかりの人も、実践を目指している人も、みんなでつながって支え合おう! と始まったのが「いのちの村」プロジェクト。そのオープニングを記念して、国内各地の実践者たちが集い、苦労談や課題も交えた活動報告、そして未来の展望について熱く語り合う1時間。トークに加わりたい方も、実践者達の体験談を聞きたい方も、ぜひご参加ください。

小柴 義明 1974年生まれ。21歳で起業、1997年には通信系ベンチャー企業を設立、年商9億円の事業に育てるが、金銭的価値の追求に限界を感じて事業を売却、社会貢献の道を探し始める。2006年に木の花ファミリーに参加、「いのちの村」構想を立ち上げる。

「いのちの村」プロジェクト わたしたちは、人と人、そして人と自然が本来持っているつながりを取り戻し、いのちが循環してゆく新たな社会づくりを目指して「いのちの村」を提唱し、その理念にもとづく複数のプロジェクトを進めています。すべての人がいのちのつながりを想い、調和の心を育てていく社会を実現していくために、具体的な仕組みを考え、作り、広げてゆくことが、わたしたちの使命です。

東京ウィメンズプラザ 第一会議室 開場12:00 閉場19:00

WP3 18 レ 12:30~13:00

老後を豊かに生きる
～神戸・那須の参加型高齢者住宅



人が尊厳を守り豊かな人生を完成させるためには、全ての人が役割を持ち、世代間交流をしながら暮らすゆるやかなコミュニティが必要です。当協会では、これを「100年コミュニティ」と名付け、多方面から実現に向けた取り組みをおこなっています。そのモデルとなる、駅前再開発型の神戸（伊川谷）と過疎地再生型の那須でのプロジェクト。それぞれの地域性を生かしつつ、暮らす人が参加してつくるコミュニティ事業の構想をご紹介します。

近山 恵子 社団法人コミュニティネットワーク協会理事長。地域プロデューサーとして、コミュニティの拠点となる「場」づくりを全国で実践中。著書『こんにちは友だち家族』（風土社）

WP3 19 レ 13:00~13:30

静岡 池田の森の取り組み
～団地の中心に農園、全戸に雨水タンク



池田の森は300坪の農園の周囲に35戸の戸建て住宅、オフィス・アトリエ棟、ベーカリーカフェ、女性服セレクトショップなどが配置されたプチ田舎の景観と町が同居する住宅街にあるエコビレッジ。無理なくできるエコ暮らし、適度な距離感の人間関係など日本型エコビレッジ「池田の森」の日常や、エコな仕組み、目指す理念などをご紹介します。また、誰でもできる技術として、池田の森の開発で採用した新発想の雨水処理方法についてもご紹介します。

漆畑 成光 池田の森環境計画工房代表。環境、暮らし、食がコンセプトの住宅地をプランニングする池田の森環境計画工房を主宰し「エコロジー団地池田の森」を開発。認定NPO法人自然環境復元協会の環境再生医。

WP3 20 ワ 13:45~14:45

みんなで語ろう・つながろう「エコビレッジって何？」



世界各地のエコビレッジ情報に詳しい「日本エコビレッジ推進プロジェクト」メンバーがお届けする和気あいあいのワークショップ。エコビレッジについての素朴な疑問、実際の体験談、エコビレッジのつくりかたなど、参加者のみなさんといっしょに"ワールドカフェ"方式で楽しく語り合います。他の参加者と交流したい方、意見交換をしたい方、ぜひどうぞ。

佐野 淳也 立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科准教授。日本エコビレッジ推進プロジェクト。「木の花ファミリー」東京メンバー。持続可能な社会やエコビレッジに関する研究・教育活動を行っている。参加型ワークショップのファシリテーターとしても活動中。

日本エコビレッジ推進プロジェクト（JEPP） 日本のエコビレッジづくりを応援する任意団体。エコビレッジづくりをしている人たちを「支援」し、エコビレッジ同士を「結」び、エコビレッジに関する国内外の情報を広く楽しく「伝えて」「共に学んで」いくことを目的とし、様々な人とのつながりや、自然との調和を大切にしながら、来るべきハッピーで持続可能な社会へ向かう流れを加速させるべく活動しています。

WP3 21 デ 15:00~16:00

地域の自立・再生・共生チャレンジ
～伊勢原・藤野・飯舘／関東近郊 地域再生の事例紹介



自然と人が共生した農村再生を日本型エコビレッジの本流にしたい。里地里山での地産地消型の日本の農村集落はエコビレッジの源流である。過疎化、高齢化、都市化の課題を抱え、新たにエコロジカルな自立再生のチャレンジをしている人達がいる。集落NPOの廃校活用による保育・自然・アート体験交流（藤野町篠原）、までい（真手）なスローライフの村（飯舘村）、里山再生活動（伊勢原）の実践者達と日本型エコビレッジの方向を探る。

NPO法人伊勢原森林里山研究会（神奈川県伊勢原市） 森づくりのジプシーがようやく丹沢山塊の山際に定住先を見つけました。限界集落になりきれない都市近郊中山間地の課題を共に担いながら地域再生に挑みます。

飯舘村（福島県） 成熟社会における効率性が幸せを約束するものではないことに気づいたわたしたち（飯舘村）は、人間本来の生き方や暮らし方を示す言葉「までいライフ」を基本理念に、伝承文化やゆとりを意識した地域づくり、人づくり、資源循環など、持続可能な村づくりを進めています。「までい」は古語の「真手」から由来しており、左右揃う手を意味し、物を大切に使うに転じ、「手間隙を惜しまず、丁寧に、心をこめて、時間をかけて、じっくりと、つつましく」という心が込められた言葉です。

篠原の里（神奈川県藤野市） NPO法人篠原の里は、小さな村の廃校になった小学校を拠点に、地域活性化を目的に地元住民が立ち上げました。都心から1時間程度の場所に、ホタルやギフチョウが飛び交い、炭焼きや酒まんじゅうづくりが生活の中に息づいている素敵な里山地域です。

4/25 日

WP3 22 ワ 16:20~17:20

パーマカルチャーで暮らしをデザインする

都市でも地方でも実践できる、自然の仕組みを活かしたデザイン術を通して、まずは身近な暮らしから変えてみませんか？ 現代のエコからくり「パーマカルチャー」を暮らしに取り入れる方法を、パーマカルチャーデザイナーから学びます。明日から役立つミニ生活術を、講師とともに楽しく体験してみましょう。

四井 真治 ソイルデザイン代表。信州大学農学部修士課程修了、ソイルデザイン・コンサルタント。万博史上初のオーガニックガーデンを手がけるなど商業施設等での循環型ガーデンのプロデュースを行うほか、パーマカルチャー講師として循環型農業や土作りに関する講義やワークショップを多数開催。

WP3 23 ワ 17:40~18:40

暖かいお金の仕組み ～地域通貨を疑似体験！

食やエネルギーの循環に加え、「経済」の循環を考えることも持続可能なコミュニティづくりに欠かせないポイント。循環経済の仕組みづくりのうえで有効な一手段となる「地域通貨」について、当分野の老舗レインボーリングをお招きし、疑似体験を交えながら楽しく学びます。

レインボーリング NPO法人レインボーパレードを母体とする、「リング」というコミュニティ通貨を利用した相互扶助グループ。環境問題に関心を持つ人々が、お互いに情報交換をしたり、活動を助け合ったりするテーマコミュニティの構築を主目的とし、長期的には調和のとれた循環型社会を創ることを目的としている。

国連大学エリザベスローズホール 開場12：00 閉場18：00

UN1 24 レ 12:30~13:00

利他的価値を事業化する



アミタ株式会社は、総合環境ソリューション企業として、環境の新しいビジネスモデルの創出に力点を置いています。そのためには、「産業の環境化」という数値で把握しやすい対象だけではなく、潜在的で目に見えにくい「生活・社会の環境化」の潜在的なニーズを捉え、市場を生み出していく取り組みが必要となります。今回は、その事例として「森林酪農（森林ノ牛乳）」と「生物多様性を保持した無農薬田んぼ（生き物田んぼ米）」をご紹介します。

熊野 英介 アミタ株式会社代表取締役社長。「持続可能社会の実現」を掲げ、他社に先駆け再資源化事業を開始。2005年、持続可能経済研究所を設立し、2007年には「森林ノ牧場」を開設。総合環境ソリューション企業として事業領域を拡大している。

UN1 25 レ 13:00~13:30

小舟木エコ村の軌跡

2008年秋にまちびらきを迎えた小舟木エコ村は滋賀県近江八幡、琵琶湖に程近い約15haの敷地に370世帯が居住する環境共生型まちづくり。出発点である「NPOエコ村ネットワーキング」の理念と活動、各戸に菜園や雨水タンクなどを設けることを定めた「小舟木エコ村風景づくり協定」、食の自生自消を応援する「NPO百菜劇場」の取組をご紹介しながら、農をきっかけにしたサステナブルなコミュニティづくりの魅力をお伝えします。

飯田 航 株式会社地球の芽取締役。2003年より小舟木エコ村プロジェクトの事業会社（株）地球の芽に参加し、約1000人が持続可能な暮らしを実践するコミュニティづくりの企画、開発を手がけている。

UN1 26 デ 13:30~14:00

事業としてのエコビレッジ

韓国の企業家（リム・キョンス）×日本の企業家（熊野英介×飯田航）による鼎談。エコビレッジは、果たして「持続可能な（＝収益性のある）」ビジネスになりうるのか？ 農村衰退や都市集中など、日本と社会背景が類似する韓国においてエコビレッジ事業を成功させたリム氏と、日本においてエコビレッジ事業・コミュニティ事業を展開する企業家とのディスカッション。

リム・キョンス [P.8 参照] **熊野 英介** [P.10 参照] **飯田 航** [P.10 参照]

UN1 27 レ 14:10~14:40

千葉 柏の葉 ～アートによるコミュニティ形成とシビックプライド



街の豊かな交流から良質なコミュニティは育まれ、街への愛着や誇り＝シビックプライドが生み出される。その際柏の葉キャンパスシティでは、アートを戦略的に活用し、一つの作品を創り上げるように住民が街づくりに主体的に参画している。アートの戦略的活用を通じて、サステナブルな街づくりに不可欠な住民ネットワークの構築を図る先進事例として、柏の葉で展開されているアートプログラムを紹介する。

松田 朋春 株式会社ワコールアートセンター。 スパイラル／ワコールアートセンターチーフプランナー。地域開発やイベント、商品開発、広告企画などに携わる。2005年愛・地球博アートプログラムのプランニング。「ランデヴー・プロジェクト」「ピノキオプロジェクト」等でグッドデザイン賞受賞。

UN1 28 レ 14:40~15:10

千葉 柏の葉 ～環境を通じた市民主体のコミュニティデザイン



低炭素型都市創造と街づくりを同時に進めるプロジェクト＝「CO_2削減見える化プロジェクト」。そこでは、企業による環境省「エコアクション・ポイント」を中心としたシステム形成と、街づくりを通じて街の担い手が環境意識を高めていくような市民主体の「まちのクラブ活動」が有機的に融合し、新しいコミュニケーション活動が生まれ始めている。現状と将来像について双方の角度から紹介する。

川路 武 三井不動産レジデンシャル株式会社。営業マネジメント本部マーケティング部ブランドマネジメントグループ主査。千葉における総合的な集合住宅事業を多数てがける。柏の葉（147、148街区）の環境面での街づくりを推進。

宮奈 由貴子 NPO支援センターちば 事務局長。NPOインターンシップ・プログラムや企業向け人材育成プログラム、遊休農地（野田市）を活用した、園芸福祉農園の事業等を行う。

UN1 29 レ 15:20~15:50

長崎 五島列島 半泊村の取り組み ～限界集落を大丈夫村！に～



あなたの故郷がもし限界集落（人口の半分が65歳以上）だったら、あなたはどのように故郷の消失を止めるでしょうか？ 少子高齢化は里山の担い手の減少につながり、川の上流域、すなわち山の環境破壊に繋がっている事実を今や無視できません。私たちは「都市生活者も田園を創る時代に突入した！」という認識の元、限界集落のメッカ長崎・五島列島の小さな村から、都市住民による里山再生プロジェクト＝大丈夫村！づくりを始めました。

WP1 東京ウィメンズプラザホール WP2 東京ウィメンズプラザ視聴覚室 WP3 東京ウィメンズプラザ 第1会議室
UN1 国連大学エリザベスローズホール UN2 国連大学レセプションホール GEIC 地球環境パートナーシッププラザ

濱口 孝　記憶の里・五島プロジェクトプロデューサー。日本の将来は「農業維新」に在り！その担い手は環境意識の高い都市生活者から生まれる!!と直感。自ら農的暮らしで《生涯現役》を目指し、里山再生活動を開始しました。

UN1 30 レ 15:50~16:20

くりもとミレニアムシティから未来ビレッジへ



2004年にエコビレッジ「くりもとミレニアムシティ」を建設。ここを拠点にコミュニティづくりのためのワークショップを毎月開催し、既に100回以上を開催。2009年には「あさひミレニアムシティ」を建設し、数家族が移住する予定である。ミレニアムシティ独自のエコビレッジづくりのポイント、また複数のエコビレッジをつなぐネットワーク構想（未来ビレッジ）などを紹介する。

井口 浩　環境建築家、一級建築士、NPO法人ミレニアムシティ理事長。2009年（社）「日本建築家協会（JIA）新人賞受賞など受賞多数。世界中のメディアにその取り組みが160回以上紹介されている。

UN1 31 デ 16:30~17:30

いよいよ始まった日本型エコビレッジⅠ
～形態の違いを超えて
／ NPO・企業・個人によるオープンディスカッション

持続可能なコミュニティづくりは、もはやNPOや個人だけが取り組むものではなくなった。企業の参入や自治体を巻き込んだ事例など、多様な組織が地域づくり・コミュニティづくりに向けて動き出している。多様な団体からの事例報告を踏まえ、日本型エコビレッジの潮流と展望、実践者が抱える問題と改善策、今後の協力体制づくりの模索など、この一大祭典を機に持続可能な社会づくりに向けて大きく前進するためのあらゆる可能性を探る。

糸長 浩司［P.6 参照］　**漆畑 成光**［P.9 参照］　**飯田 航**［P.10 参照］
濱口 孝［P.11 参照］　**古田 偉佐美**［P.12 参照］

国連大学レセプションホール　開場15：00　閉場18：00

UN2 32 デ ワ 15:30~17:30

アート×エコビレッジ ケンケンガクガク



「エコビレッジにクリエイティビティを！」農にディープに関わり、エコビレッジ計画もあるアーティスト、生意気のおふたりをお迎えしてのぶっちゃけトークセッション。そして、世界中で実践されている、エコビレッジ・ビルディングに使える画期的なアイデアを、ワクワクなニュースを配信しているバイリンガルニュースメディア、greenz.jpがお届けします。

生意気　ニュージーランド生まれのディヴィッド・デュバル=スミスとイギリス生まれのマイケル・フランクの二人によるクリエイティブ・ユニット。活動範囲は多岐に渡り、グラフィックからステージデザイン、映像、オリジナル自転車の製作、ハードなゴスペルミュージック、ガーデニング、ランドスケイプファーミング、大工仕事にまで及ぶ。

greenz.jp　ポジティブでワクワクな未来を毎日お届けするWebニュースメディア。ITやアートに従事する人々が輝く「オフィスフォレストリー」をテーマにしたエコビレッジを画策中。

地球環境パートナーシッププラザ　開場10：00　閉場17：00

GEIC 11 ⓘ **交流カフェ**
総合インフォメーション ／受付／その他［P.7 参照］

第 3 日目　4/26日

東京ウィメンズプラザ ホール　開場9：30　閉場17：00

WP1 33 レ 10:00~11:00

フィンドホーン
～持続可能性のデザイン、40 年の軌跡



70年代、既存の社会体制へのアンチテーゼとして世界各地でヒッピー・コミュニティやコミューンが作られた。しかし、大半は長続きせず、多くは2～3年で解散となる場合が多かった。英国スコットランドにあるフィンドホーンは、40年間コミュニティとして存続し続け、辺境地にありながら今なお世界中から多くの来訪者をひきつけることで有名なコミュニティ。10年以上このコミュニティに住まい、組織の維持・活性に重要な役割を果たすメイ・イースト氏をお招きし、フィンドホーンの魅力、歴史、持続可能なコミュニティづくりのポイントについてお話いただく。



メイ・イースト（May East）［イギリス］
GEN 理事、フィンドホーン財団。ブラジルの社会変革活動家、現在英国フィンドホーン在住。ガイアエデュケーション プログラムディレクター。30年に渡り、音楽、先住民、人間、女性、反核、環境、持続可能な定住運動などの分野で活動。1992年から英国スコットランドのエコビレッジ、フィンドホーンで生活を始める。2005年からスタートした「国連持続可能な開発のための教育の10年」の一環として、エコビレッジデザイン教育（EDE）の展開を精力的に進めている。

WP1 34 デ 11:00~11:30

永続するコミュニティの秘訣

フィンドホーン在住のメイ氏と、在住経験のある榎本氏による対談。フィンドホーンはエコビレッジの老舗として40年以上存続し、最近では国連の提唱する「持続可能な開発のための教育（ESD）」の一環として世界中にエコビレッジづくりの実践者達を輩出している。
フィンドホーンが長年に渡って世界中から来訪者をひきつけているのはなぜか？ 調和と創造性に溢れたコミュニティづくりとは？ 2人の対談から、コミュニティ永続の秘訣を探る。

メイ・イースト［P.11 参照］　**榎本 英剛**［P.12 参照］

WP1 35 レ 12:20~12:50

里地里山の再生と新たなコモンズの創造



日本政府は、名古屋で開催される生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）を契機に、日本の里地里山を人間・自然の共生関係のモデルとして世界に発信しようとしており、国連大学もその取組に参加している。しかし、里地里山は、かつては略奪的な利用がなされ、また現在では、開発が進む一方、残された里地里山は放置され、二次的自然が育んできた生物多様性が危機に陥っている。こうした状況を打破し、望ましい人間・自然関係を再構築するためには、里地里山を「新たなコモンズ」として捉え、地域の人々の協働による持続可能な社会づくりに結びつけていく必要がある。

武内 和彦　東京大学サステイナビリティ学連携研究機構副機構長、東京大学大学院農学生命科学研究科教授。2008年7月からは国際連合大学副学長を兼務。専門は、自然を活かした地域づくり。アジアの砂漠化や土地荒廃の防止、巨大都市の環境改善も研究している。最近は、サステイナビリティ学の世界的研究拠点形成に向けて奔走している。

4/26日

WP1 36 レ 13:00~14:00

リローカリゼーションとスローライフ



エコビレッジを、経済のグローバル化に対抗する再ローカル化（relocalization）の潮流のひとつと捉える。ヘレナ・ノーバーグ＝ホッジの議論をベースに、これまでタブー視されていた「自給」や「保護主義」や「農本主義」といった言葉への再評価を試みる。また、米大陸、アジア、日本のローカル化の事例を挙げながら、GNPからGNHへの、「豊かさ」の経済から「幸せ」の経済への、転換の道筋について論じたい。



辻 信一　明治学院大学国際学部教授。文化人類学者。NGOナマケモノ倶楽部の世話人を務める他、数々のNGOやNPOに参加しながら、「スロー」や「GNH」というコンセプトを軸に環境文化運動を進める。環境文化NGO・ナマケモノ倶楽部を母体として生まれた(有)スロー、(有)カフェスロー、スローウォーターカフェ(有)、(有)ゆっくり堂などのビジネスにも取り組む。著書多数。

WP1 37 レ 14:20~15:20

トランジションタウンの可能性



今から数年前、イギリスの片田舎にある小さな町で、気候変動と石油ピークの問題に危機感を覚えた30代の若者によって始められ、瞬く間に世界中を席巻する市民運動に発展したトランジション・タウン。一から新しくエコビレッジを立ち上げるのではなく、既存の市町村を市民の持つ力と智恵を最大限に引き出すことでエコビレッジ化していくというこの運動のアプローチは、多様化しつつあるエコビレッジ・ムーブメントの中でも、独特なエネルギーと輝きを放っています。こうしたトランジション運動の魅力と、それが持つ可能性について、この運動を始めたロブ・ホプキンス氏からこのエコビレッジ国際会議の参加者に宛てたビデオ・メッセージを紹介しながら、探っていきたいと考えています。ぜひこの機会にトランジション運動のエネルギーの源泉に触れてみませんか?

榎本 英剛　トランジション・ジャパン代表。CTIジャパン創設者。昨夏まで3年間フィンドホーンに在住中、トランジション・タウンの活動に出会う。現在、神奈川県藤野町を拠点に日本での普及に努めている。

トランジション・ジャパン　トランジション運動の日本における「ハブ」として2008年6月に設立。「ハブ」とは、車輪の中心を意味し、特定の国や地域におけるその運動の中核となる存在です。英国トランジション・ネットワークと協力しながら、トランジション運動を日本全国に広めるため各種の情報提供、イベントやトレーニングの開催、ネットワークづくりなどを進めていくことを使命としています。

WP1 38 デ 15:30~16:30

グランドディスカッション 最終日 ～日本のエコビレッジムーブメント 小さなアクションから大きなうねりへ

持続可能なコミュニティ、エコビレッジの創造に取り組む、国内各地の実践者達が集い、3日間で獲得した情報智、パッションを会場の人達と共有化し、日本での今後のエコビレッジ展開のための理念、手法、制度的課題を明らかにする。日本の社会変革のために、より多く、多様な人達や組織の参加によるエコビレッジチャレンジの大きなうねりを起こすために、人と人、組織と組織、社会と経済、地域と地域、都市と農村のつながり、実践者達のつながりのあり方を考える。この日本型エコビレッジのうねりを持続させていくための仕掛けの構築を会場の参加者を交えて討議し、第3回エコビレッジ国際会議TOKYOをまとめる。

糸長 浩司 [P.6 参照]　**漆畑 成光** [P.9 参照]　**飯田 航** [P.10 参照]
井口 浩 [P.11 参照]　**古田 偉佐美** [P.12 参照]　他

国連大学エリザベスローズホール　開場11：00　閉場18：00

UN1 39 レ 11:35~12:25

本来経済とエコビレッジムーブメント

これまでの資本主義は、3つの切り捨てによって人類活動の生命維持基盤そのものを危うくしてきました。3つとは、「未来の切り捨て」「自然の切り捨て」、そして「弱者の切り捨て」です。さらに、1990年以降の金融資本主義は、「虚業」ともいうべきビジネスと経済を肥大化させてきました。今後問われるのは、「場」と「現実」に根を張った「本来経済」への復帰です。持続可能な資本主義は可能なのか…、それとも全く違った経済システムになるのか? その「本来経済」への転換のなかで、エコビレッジとはどのような役割を担えるのかについて考察します。



ピーター・デイヴィッド・ピーダーセン（Peter David Pedersen）［日本］
株式会社イースクエア代表取締役社長。コペンハーゲン大学文化人類学部卒業。環境経営コンサルティングやニュースキャスターを務めた後、2000年9月、CSR・環境コンサルティングを手がける株式会社イースクエアを設立。300を超える日本企業及び行政機関のCSRコンサルティングに携わる。

UN1 40 レ 12:30~13:10

木の花ファミリーの軌跡と展望



日本では数少ない共同生活型エコビレッジとして内外で注目されている「木の花ファミリー」。15年におよぶその実践を支えてきたのは、創設以来変わることのない「大切なこころ」でした。そのこころが目指すもの、そして日々の暮らしについて、創設の中心メンバー「いさどん」こと古田偉佐美が語ります。さまざまな実践が広がりはじめた時代の流れを受けて、新たな発展の段階を迎えたファミリーの最新情報もお伝えします。

古田 偉佐美　木の花ファミリー創設メンバー。1951年生まれ。1993年、調和した暮らしを目指す仲間たち20名とともに静岡県富士宮市に移住、木の花ファミリーを創立。運営の多方面にわたって中心的な役割を果たしている。

UN1 41 デ 13:20~14:20

居住者大集合！ エコビレッジ生活の実践者達 ／都内エコビレッジ居住者による本音トーク （エコアパート花園荘、エコヴィレッジ鶴川、かんかん森）

日本におけるエコビレッジの運動は、海外とはまたひと味違った展開をみせています。賃貸アパートやマンション型など、都心にいながらにして「共に暮らす」多彩な仕組みが、小規模ながらも日本ならではの取り組み事例としてできつつあります。今回は、都会でこういった生活を実践する居住者の方々にお集りいただき、住まい感を自由な議論でうかがいます。楽しいこと、改善点などを抽出しながら、日本型・都市型のエコビレッジの未来像を会場の皆さんとイメージしてみたいと思います。

山田 貴宏　一級建築士事務所ビオフォルム環境デザイン室代表。地産地消な木の家造りを中心とした建築/環境設計を行う。パーマカルチャーをもとに、建物とそれを取り巻く自然まで含めた幅広い住環境と場づくりがテーマ。NPO法人パーマカルチャー・センター・ジャパン理事、職人がつくる木の家・木の家ネット会員、日本大学生物資源科学部 非常勤講師。

WP1 東京ウィメンズプラザホール　WP2 東京ウィメンズプラザ視聴覚室　WP3 東京ウィメンズプラザ 第1会議室
UN1 国連大学エリザベスローズホール　UN2 国連大学レセプションホール　GEIC 地球環境パートナーシッププラザ

UN1 42 デ 14:30~15:20

気付きとコミュニティ



仏教思想に基づくスリランカのコミュニティ「サルボダヤ・シュラマダーナ運動」と、静岡の共同生活型エコビレッジ「木の花ファミリー」。一見何の関連もない両者だが、コミュニティにおいて重視されること、共同生活を通して目指すものなど、組織の根幹ともいえる世界観・価値観に驚くほどの類似が見られる。サルボダヤのアリヤラトネ博士、木の花ファミリーの古田氏が共に強調する「気付き」「目覚め」「調和」とは何か。人間が自然とのつながりを取り戻すために、再び人と人とが支えあう暖かな社会を創るために、私たちが忘れてはならないこととは何か。宇宙レベルの話から個々人の心の話まで、二人の巨匠が贈る貴重な対談。

古田 偉佐美 [P.12 参照]　**ヴィンヤ・S・アリヤラトネ** [P.6 参照]

UN1 43 デ 17:00~18:00

千葉鴨川と地域コミュニティ



半農半Xを実践する若者がゆる〜く集うコミュニティ。そんな地域が、東京から車で2時間の場所にある。千葉鴨川には、都会からの移住者達が自給自足的な生活を実践しながら、地域通貨などを通じて支えあうネットワークが広がっている。地域のコアメンバーである宮田氏、林氏をお招きし、東京との橋渡し役を担う神澤氏を司会に、この地域の魅力や移住者達の暮らしぶりについて紹介する。

宮田 武宏　鴨川自然王国在住。やりたいことをやってきて、たどりついたのが今のくらし。王国で働く傍ら、地域活動にもいそしむ。王国内では、会員イベント、里山帰農塾などの企画運営を担当している。

鴨川自然王国　田んぼ8反と畑9反、それに4頭のヤギ、3羽の鶏と常駐スタッフ5人で運営する多目的農園です。農園管理を中心として、王国会員、里山帰農塾などのイベントを行っています。定年後や、20〜30代からの生き方を探す方など、さまざまな人が王国でともに活動しています。また、すでに移住してきた人たちと集まってマーケットを開催するなど役割も増えてきました。地域の中に存在する新しいコミュニティとしての活動が始まっています。

林 良樹　安房マネー発起人。「地球と共に生きる」をアートするアースアーティスト。絵描き、百姓、地域通貨「安房マネー」事務局、NPO法人うず「鴨川エコビレッジ計画」、T&T研究所研究員。

安房マネー　現在約150家族が参加する地域通貨のネットワーク。20〜60代までの多様な人々を結ぶ輪は、鴨川を中心に南房総全域に広がっている。個々人が好きな場所に住み、自立し、自由に生きながらもオルタナティブな価値観を共有し、ゆるやかにつながる「意識のコミュニティ」を形成。このネットワークを通じ、半農半Xな移住者と地元住民と都市住民がつながる新しい農村コミュニティが生まれようとしている。

神澤 則生　NPO法人トージバ事務局長、種まき大作戦事務局。1966年東京都生まれ。食と農、都市と農村をつなぐをテーマに、様々なイベントの企画運営からデザインを手がける。本業はグラフィックデザインと食品販売会社、一粒合同会社の共同代表。

トージバ　トージバは「都市と農村をつなぐ」をテーマに、地大豆の種をまく「大豆レボリューション」や竹活用の取り組み「バンブーファクトリー」のほかに、「東京朝市アースデイマーケット」や「種まき大作戦」などの食と農に関わる「場」づくりに関わっています。

国連大学レセプションホール　開場11：00　閉場21：00

UN2 44 デ 11:40~12:10

国産無垢材の健康エコ住宅で林業再生



住まい方を変える事で、カラダもココロも、森もコミュニティも喜びます。戦後から今に至る日本の住宅は、安い外材を主に使い、接着剤で集成材や合板にして用いて建てられてきました。結果は三方悪し。建物は住宅ローンより短い期間で建て直され、住まい手はシックハウスで健康を侵され、海外の森林は伐採されて生態系が破壊され、輸送や加工では大量のCO_2が発生、同時に国内の林業と森林も疲弊、大工は技術の活かし先を失い…という有様です。しかし、無垢の木を活かすところから、健康にも環境にもよく、林産地や伝統技術にも健全な経済循環を取り戻す、三方良しなあり方は可能です。地産地消やエコビレッジと結びついた形での、建築・住宅業、林業のあり方、住まい方の変革を視野に入れ、「天然住宅」は2008年3月に立ち上がり、挑戦を始めています。あなたのチカラが必要です。

相根 昭典　中間法人天然住宅代表理事。一級建築士、1954年京都府生まれ。住宅での化学物質汚染に危機感をもち、東西医学・民間療法等を幅広く研究し、健康住宅を提唱。健康住宅の設計・監理業務に加え、無・低公害建材の研究・開発、コンサルティングを行う。現在、循環型社会を目指した森林復興とエコ建築やエコビレッジの具現化に重点を置き活動している。（株）アンビエックス代表取締役。著書『健康な住まいを手に入れる本』（共著・コモンズ発行）

UN2 45 レ 12: 10~12:40

里山長屋暮らし

環境とつながる／人とつながる暮らし方は、これからの住まい方の大事なテーマです。神奈川県の藤野町という里山が豊かに残る場所に、4世帯がゆるやかにつながりあう暮らし方を模索しようと「里山長屋暮らし」というプロジェクトを立ち上げました。風土の伝統知に学びながら、日本型のエコロジカルかつ共に住む仕組みの実現を目指します。海外のコーハウジングの事例なども紹介しながら、これからの「共住」の仕組みを考えます。

山田 貴宏 [P.12 参照]

UN2 46 レ 12:45~13:15

里地再生と地域コミュニティ



「里地」とは、雑木林、田んぼ、小川といった身近な自然に恵まれ、長い歴史の中で、自然と共生した暮らしが伝えられてきた地域のこと。「里地ネットワーク」は、その里地にある生活文化を見つめ直し、自然との共生や地域に伝わる技術の継承を行っています。集落における地域資源の見直し作業やトキの野生復帰に向けた環境再生ビジョンなどの活動をしています。この里地里山の保全と再生のための里地ネットワークの流儀を紹介します。

竹田 純一　里地ネットワーク事務局長。法学部卒業後、金融機関、英国技術開発シンクタンク、市民団体を経て、現在里地ネットワーク、トキの野生復帰連絡協議会、各事務局長。

UN2 47 レ 13:15~13:45

自然復元活動を通じたヒトとコミュニティの再生



高度成長時代に失われた「身近な自然環境」は、子供の成長にとって極めて大切な要素であった。自

然の中での遊びは、生物であるヒトの五感を発達させ、危険をのがれ、食料を得、コミュニティを育むといったバランスある成長に欠かすことができない。今、社会が、ヒトが、危機に瀕している原因の1つは「自然からの隔離」である。ヒトとコミュニティが再生される社会像を目指し、当団体で取り組んでいる都市の再自然化、農林業の再活性化を通じた自然復元活動を紹介する。

加藤 正之　NPO法人自然環境復元協会理事。1990年より三島市における水辺の再生活動に参加し、川や緑地の自然再生、学校ビオトープづくりに携わる。近年は農林業の活性化を通じての自然復元に取組む。NPO法人グラウンドワーク三島の理事も務めている。

UN2 48 レ 13:45~14:15

懐かしい未来のエネルギー

エコビレッジを考える時にその根源をなすエネルギーについて厳密に思いをはせることは少ない。エコビレッジの歴史をエネルギーの観点から解きほぐし、産業革命以来の現代文明からのサバイバルの道筋を近代化された国の市民と共に探し、開発途上国の住民の皆さんにはフロッグジャンプを促そうと思います。必需となる自然エネルギーの本質に共感し、エネルギーを変えることで生活が変わるエネルギーシフト。現代の蜃気楼の上に立ったままでなく、体感を伴った自然と共生の「懐かしい未来」を描いてみよう。

都筑 建　自然エネルギー推進市民フォーラム理事長。電算機の開発技術者を皮切りに、自主生産労働運動を進め、企業の門を越えた市民生活を守る運動を重ね、実践を伴う環境問題の中で市民のデータ活用を磨き、自然エネルギー・省エネルギー普及に取り込んでいる。

UN2 49 デ ワ 14:20~15:20

べてるの家はスローのふるさと ～障がい者が主役の地域づくり

スローな街づくりのヒントは「つながり＝わかちあい」と「引き算＝がんばらない」にあった！ ナマケモノ倶楽部から誕生した東京・国分寺のコミュニティカフェ、カフェスロー代表吉岡淳氏、北海道浦河町で精神に障がいを抱える当事者たちと取り組む「べてるの家」理事の向谷地生良氏をゲストに、「障がい者と共同体、エコビレッジ」というテーマで海外の事例もとりいれてお話を伺います。聞き手はミスター・ナマケモノ、辻信一氏。



吉岡 淳　カフェスロー代表。2001年に自身が暮らす東京府中市にナマケモノ倶楽部拠点として「カフェスロー」をオープン。代表として経営に携わりながら、各地のコミュニティカフェづくりを応援。



向谷地 生良　べてるの家理事。1984年に「浦河べてるの家」を当事者とともに設立。以来、精神障害を抱えた人たちと会社や共同住居などをつくり、「弱さを絆に」「精神病で街おこし」を続けている。

辻 信一 ［ P.12 参照 ］

UN2 50 ワ 17:00~18:30

Let's トランジション in ジャパン！



このワークショップでは、まず日本におけるトランジション運動の事例をいくつか報告したあと、実際にその活動の一端を経験してもらうべくオープンスペースあるいはワールドカフェといった創造性や主体性を引き出すためのミーティング手法を使って、日本をトランジションさせるにはどうしたらいいかを参加者全員で考えてみたいと思っています。これに参加すれば、なぜトランジション運動が短期間のうちに世界中に広がったかがわかるはず。

トランジション・ジャパン ［ P.12 参照 ］

UN2 51 19:00~21:00

フェアウェルパーティ／スローフードで交流会

★26日券または3日通し券お持ちの方は無料でご入場いただけます。
★24日券または25日券をお持ちの方も、1500円の入場料でご参加可。

3日間に渡る「笑顔がつながる暮らし方の祭典」を締めくくるプログラムは、豪華なゲストスピーカーの方々に加え、多彩な来場者、関係者が集まるスペシャルパーティ。関係団体ほか、来場者の方も参加できる飛び込みのオープンマイクなども予定しています。エコビレッジ初心者の方も、各分野のスペシャリストやエコビレッジ実践者の方も、ぜひ多くの方と交流してここから大きな輪を広げていってください。
おいしい軽食とお飲みものをご用意してお待ちしています。

地球環境パートナーシッププラザ　開場10：00　閉場17：00

GEIC 11 ⓘ **交流カフェ**

総合インフォメーション／受付／その他 ［ P.7 参照 ］

講演者 / 担当者	プログラム

あ

安珠（アロマグルーヴ代表）…… WP2 10
飯田 航（株式会社地球の芽取締役）…… UN1 25 UN1 26 UN1 31
井口 浩（NPO法人ミレニアムシティ理事長）…… UN1 30 WP1 38
糸長 浩司（日本大学生物資源学部教授/PCCJ代表理事/環境建築家）…… WP1 01 WP1 08 WP1 14 WP3 21 UN1 31 WP1 38
井上 照夫（天理大学教授/国連ユニタール特別上席顧問）…… WP1 07 WP1 08
ヴィンヤ・S・アリヤラトネ（サルボダヤ・シュラダマーナ運動専務理事）…… WP1 06 WP1 08 WP1 14 UN1 42
内山 隆（エコヴィレッジ鶴川居住者/中間法人天然住宅マネージャー）… UN1 41
漆畑 成光（池田の森環境計画工房代表）… WP3 19 WP1 31 WP1 38
榎本 英剛（トランジション・ジャパン代表）… WP1 34 WP1 37 UN1 50

か

加藤 正樹（NPO法人篠原の里事務局長）…… WP3 21
加藤 正之（NPO法人自然環境復元協会理事）…… UN2 47
兼松 佳宏（greenz.jp）…… UN2 32
鎌田 陽司（懐かしい未来ネットワーク代表）…… WP2 09 WP2 15
神澤 則生（NPO法人トージバ事務局長）…… UN1 43
川路 武（三井不動産レジデンシャル株式会社）…… UN1 28
木村 ひろ子（かんかん森居住者/株式会社コレクティブハウジング代表取締役）…… UN1 41
熊野 英介（アミタ株式会社代表取締役社長）…… UN1 24 UN1 26
小柴 義明（いのちの村プロジェクト）…… WP2 17
河野 磨美子（レインボーリング運営委員）…… WP3 23

さ

相根（さがね） 昭典（中間法人天然住宅代表理事）…… UN2 44
佐藤 周一（飯舘村総務課主幹兼企画係長）…… WP3 21 WP1 38
佐野 淳也（立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科特任准教授）… WP3 20
じぶこん…… WP1 04

た

武内 和彦（国際連合大学副学長）…… WP1 35
竹田 純一（里地ネットワーク事務局）…… UN2 46
近山 恵子（社団法人コミュニティネットワーク協会）…… WP3 18
辻 信一（明治学院大学教授/ナマケモノ倶楽部世話人）…… WP1 36 UN2 49
都筑 健（自然エネルギー推進市民フォーラム理事長）…… UN2 48
デイヴィッド・デュバル=スミス（生意気）…… UN2 32

講演者 / 担当者	プログラム

は

Percussion花＆フレンズ…… WP1 12
馬場 直子（ナマケモノ倶楽部事務局長）…… UN2 49
濱口 孝（記憶の里・五島プロジェクトプロデューサー）… UN1 29 UN1 31
林 良樹（安房マネー発起人/事務局）…… WP3 23 UN1 43
ピーター・D・ピーダーセン（株式会社イースクエア代表取締役社長）… UN1 39
ヒルダー・ジャクソン（GEN及びガイアエデュケーション共同設立者）…… WP1 05 WP1 08 WP2 09
藤原 敬一（かんかん森居住者組合森の風代表）…… WP2 15
古田 偉佐美（木の花ファミリー創設メンバー）…… UN1 31 WP1 38 UN1 40 UN1 42
古橋 道代（JEPP/日本エコビレッジ推進プロジェクト代表）… WP2 09
ベンツ・リンドブラッド（デンマーク大使館参事官 領事）… WP1 02

ま

巻 京子（レインボーリング事務局）…… WP3 23
マイケル・フランク（生意気）…… UN2 32
松田 朋春（株式会社ワコールアートセンター）…… UN1 27
松原 広美（greenz.jp）…… UN2 32
宮田 武宏（農事組合法人鴨川自然王国事務局）…… UN1 43
宮奈 由貴子（NPO支援センターちば事務局長）…… UN1 28
向谷地 生良（べてるの家理事）…… UN2 49
メイ・イースト（フィンドホーン財団/GEN理事）…… WP1 33 WP1 34
森田 貴英（映画「降りてゆく生き方」プロデューサー）…… WP2 16

や

山口 寿則（NPO法人伊勢原森林里山研究会）…… WP3 21
山田 貴宏（一級建築士事務所ビオフォルム環境デザイン室代表）…… UN1 41 UN2 45
山本 ペロ（greenz.jp）…… UN2 32
四井 真治（ソイルデザイン代表）…… WP3 22
吉岡 淳（カフェスロー代表）…… UN2 49

ら

リム・キョンス（株式会社E-jang代表取締役社長）…… WP1 13 WP1 14 UN1 26
ロス・ジャクソン（GEN共同設立者/ガイアトラスト会長）…… WP1 03 WP1 08 WP1 14

エコビレッジとは？

食べ物、エネルギー、人と人の繋がりなど生活の各要素において、持続可能な解決策が包括的に実践されているコミュニティや地域の総称。1998年には、UNHABITAT（国連人間居住計画）において「持続可能な100のモデル実践例」に挙げられ、2005年にはUNITAR（国連訓練調査研究所）より「持続可能な開発のための教育プログラム（Education for Sustainable Development,ESD）」としてエコビレッジデザイン教育が正式に認証されている。有機／自然農法を基本とした食の循環、自然エネルギーや地域通貨の利用など、生活の「仕組み」の面で随所に持続可能な工夫が施されているだけでなく、コミュニティ内や近隣住民など「身近な人とのつながり」、また個人レベルでの「心と身体のつながり」まで視野に入れていることが特徴。日本の伝統文化や精神性、地域性を踏まえた上で、海外の先進事例から学び、日本型エコビレッジつくりに挑戦する実践者も増加している。

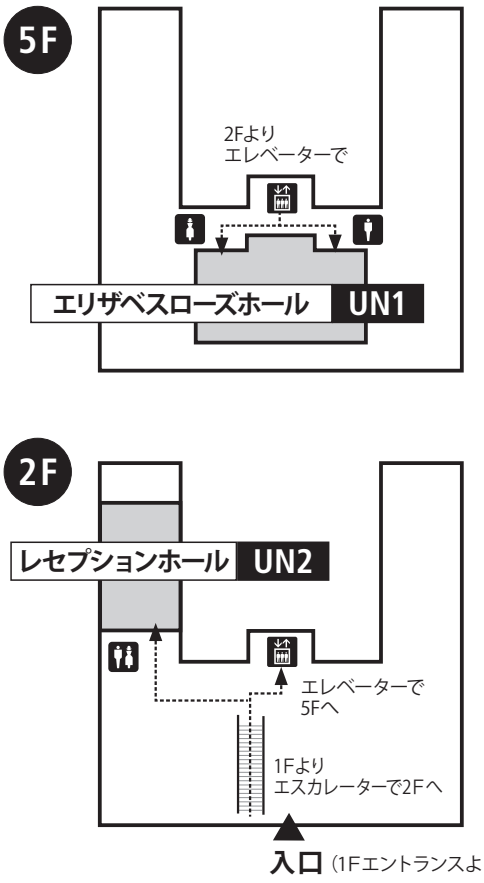
特　徴
- 有機農や自然農による食の循環
- 自然エネルギーの積極的利用
- 雨水利用や排水浄化による水の循環
- 地元の自然素材（木、土、石等）を使ったエコロジカルな建築
- パーマカルチャーの考え方に基づく循環型ライフスタイルの設計
- 地域通貨やコミュニティビジネスなどで支え合う地域経済を実践
- 「人と人のつながり」や、「心と身体のつながり」を重視
- アートや創造性などを重視
- その土地独自の伝統文化や地域特性を尊重

この冊子は、間伐材を有効活用した「間伐材印刷用紙」と、揮発性有機化合物を排出しない「ノンVOCインキ」を使い、有害な廃液を出さない「水なし印刷方式」で印刷しております。
第3回エコビレッジ国際会議TOKYOプログラムガイド　デザイン：TR.デザインルーム タナカリカコ　印刷協力：株式会社野毛印刷社

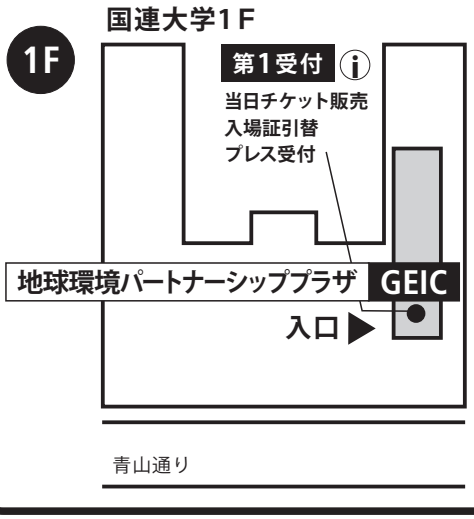
会場のご案内

当日券の販売／プレス受付などは、**第1受付** **第2受付** へお越しください。

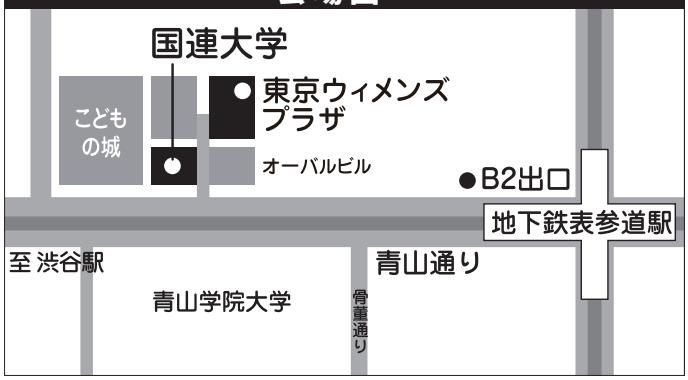
国連大学



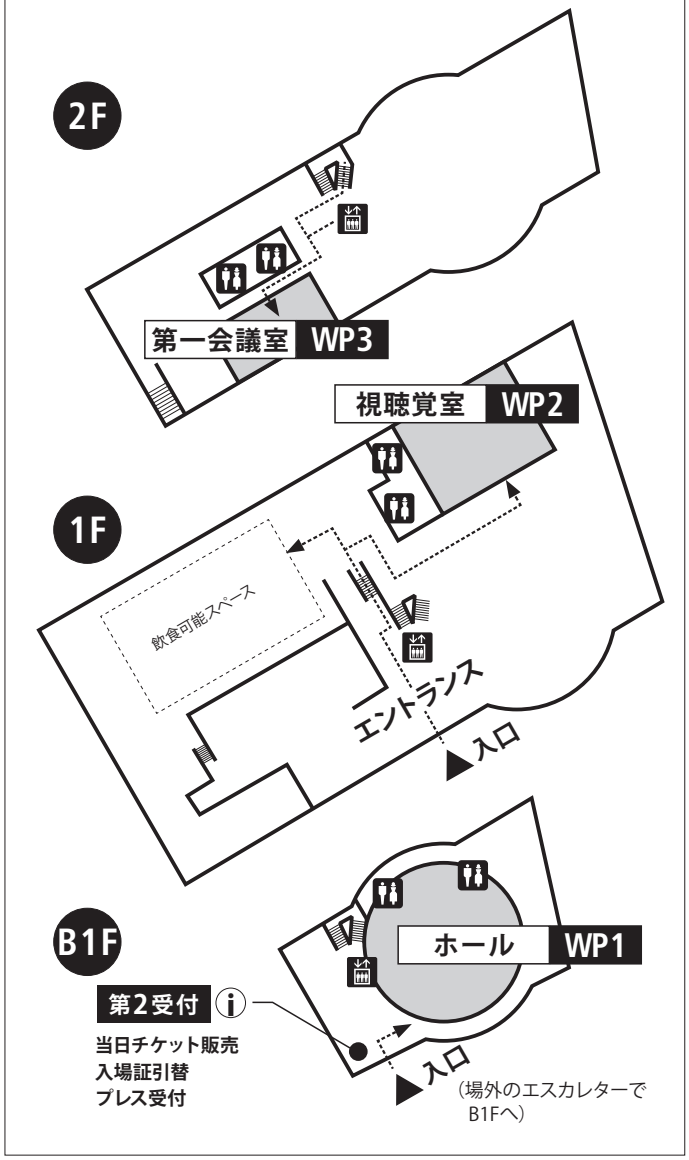
地球環境パートナーシッププラザ



会場図



東京ウィメンズプラザ



BeGood Cafe

1999年1月にBeGood Cafeは原宿で生まれました。「持続可能な社会と平和」に向かって、自分達の出来る範囲から少しずつピースな輪を広げようという目的で始まったコミュニティ・カフェです。「カフェ」という名称を使っているのは、人と人が交差する自由な空間であって欲しいからです。

BeGood Cafeの主なアクション

- **オレンジプロジェクト** 小田原の放置ミカン農園を再生する活動。毎月1度参加者と農園の手入れをしています。
- **エコビレッジ国際会議TOKYO** 2006年、2007年に続き、今年第3回目を開催。日本国内と世界のエコビレッジ動向を紹介。
- **子ども向けエコイベント** エコ工作教室やスタンプラリーを開催。楽しくエコを学んでいただきます。（イオンレイクタウン）
- **クボタ地球小屋** 長野県安曇野で小学生4〜6年生を対象にしたサマーキャンプを開催。合鴨田んぼなどを体験してもらい、子ども向け自然体験、環境教育を続けています。
- **高校生の国際交流** 数カ国の高校生を招いて交流サマーキャンプを開催。エコとエネルギーについて自ら考え、学んでいただきます。（東芝国際交流財団）
- **エコプロダクツ展** 毎年12月に開催される日本最大級のエコ展示会で、オーガニックフードコートやマーケットなどを企画制作。スローなライフスタイルを提案しています。

NPO法人 ビーグッドカフェ

東京都目黒区東山3-16-34 Smile Studio　tel：03-5773-0225　fax：03-5773-0226　E-mail：ecovillage@begoodcafe.com　http://begoodcafe.com

©BeGood Cafe2009 禁無断転載